



## 高等部 自立活動 休み時間 学習指導案

日 時 平成 13年 1学期  
場 所 石川県立小松養護学校  
          高等部 1年 2組教室  
指導者 池田利昭  
生徒数 2名 (Yさん、M君)

### 1 単元名 わたしのIT革命 - パソコンで動く紙芝居 -

### 2 目 標

- ・ 大好きなコマーシャルやことば、写真を、他の人の助けを求めずに自分の見たいように見る。
- ・ 改造キーボードスイッチにより、パソコンを操作する喜びを味わう。
- ・ 次に何が起こるだろうかという好奇心を喚起し、自らの主体的な判断で選択できる状況を楽しむ。

### 3 指導にあたって

Yさんは高等部3年生で、音声言語によるコミュニケーションは得意ではありませんが、相手の気持ちをよく理解して元気に学校生活を送っています。Yさんはいつも、大好きなテレビ番組の出演者名や地名、企業名などを、お母さんや教師に書いてもらって楽しんでいます。Yさんと私は一昨年度、テレビコマーシャルや学校行事のビデオなどを教室に並べ、再生専用ビデオでいつでもみられるようにした、簡易ビデオオンデマンドとでも言える方法で自分の得たい情報(多分に限定的ではありますが)を、いつでも利用できるという取り組みをおこないました。また、デジタルビデオによる「これなんだ」に「どここだ」といった自作のビデオソフトを楽しんだり、インターネット上の企業ホームページを教師や友人と一緒に閲覧しました。(第17回メディア教育コンテスト石川県高等学校視聴覚教育研究会会長賞受賞を受賞しビデオデッキをもらいました)パソコンの利用に関しては、マウスもキーボードも操作が難しく、他人の操作を見ているだけでしたので、なんとか少しでも自分の見たい画面を好きなだけ見る方法がないものかと考え、キーボードを改造した専用スイッチを制作し(制作の詳細は別稿)、2つのスイッチで進んだり戻ったりできる、紙芝居のような専用ソフトを作りました。

M君は自動車が大好きで、雑誌やビデオを見たり、自動車の絵やメーカーの名前を書き写したりして楽しんでいます。Mくんは手をそえてあげると、マウスのクリックができますが、インターネットの利用では、次の画面が表示されるまで待つことが苦手で同じ場所を猛スピードでクリックし続けてしまいます。タッチパネルも試してみましたが見たい画面は現れず、イライラはつるばかりでした。そこで、Yさんのために制作したキーボードスイッチを利用してマルチメディア自動車図鑑を一緒に作り、自由に楽しむことにしました。



## 4 本時の学習

### (1) 題材名

「次は何が出てくるかな」

- 自分で見たい画像を選んで見よう- Yさん

「ぼくの自動車コレクション」

- マルチメディア自動車図鑑の制作と鑑賞 - M君

### (2) ねらい

- ・好きなコマーシャルのビデオ動画や、商品名がテロップで動く様子を自分の操作で選り楽しむ。
- ・インターネット上の情報のうち、興味のあるものを集め、自分だけのオリジナルコレクションとして楽しむ

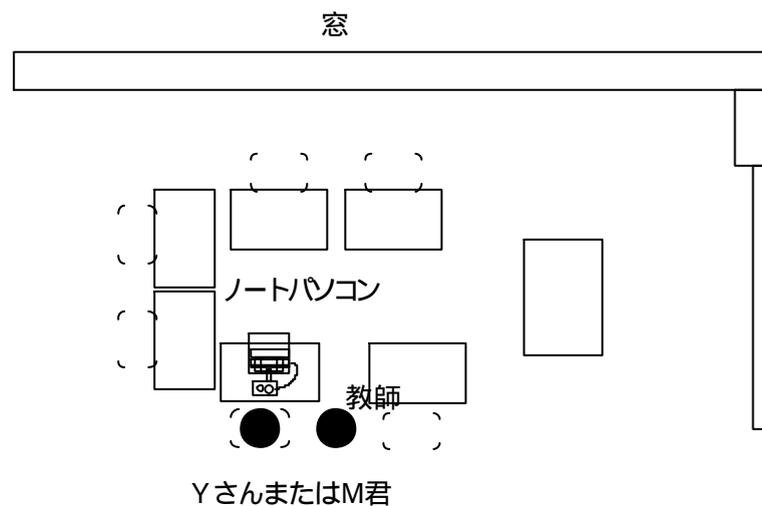
### (3) 準備

教室で利用できるノートパソコン1台

自作のキーボードスイッチ

- ・テレビで録画しておいたコマーシャル等をパソコンで編集したもの  
(そのままではデータ量が膨大となり読み込みに時間がかかりすぎるため)
- ・あらかじめ利用できそうなインターネット上の画像や動画を「花子」のスライドショー用のソフトとして作っておく。

### (4) 学習場面

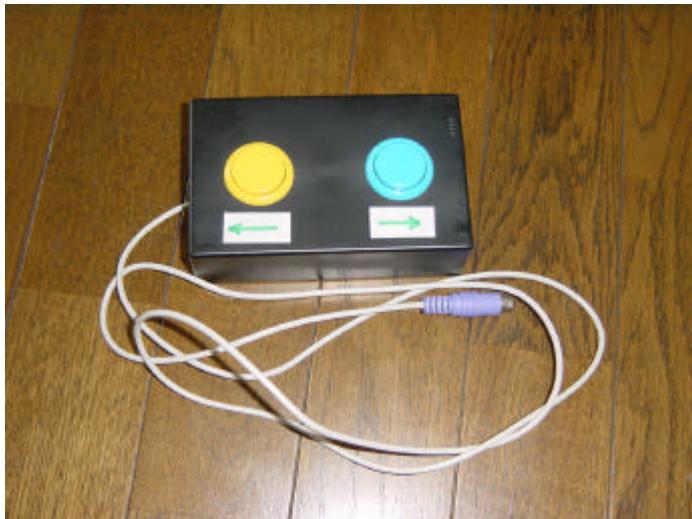




(5)展開

Yさん

生徒の活動、 教師の支援、 評価の視点
<p>コンピューターとスイッチの準備ができたならYさんを誘う</p> <p>「進む」のスイッチの操作を数回やってみせてからYさんにもすすめる</p> <p>Yさんは興味のあるなしにかかわらず最後のページまで進めてみるとおもわれるので、最後まで行ったら「戻る」の操作をして見せる</p> <p><b>押しボタンスイッチを押してスライドを進めたり戻したりして、テレビコマーシャルやインターネットのホームページ、学校行事の動画、テロップや音声などを楽しむ</b></p> <p>画面を指さして声をあげたときは黒板にその言葉を書く</p> <p>スイッチと画面の「進む」「戻る」の関係が納得できているか</p> <p>進んだり戻ったりすることによって自分の見たい画面が再び見られることを理解できているか</p> <p>特に関心の強かった要素(タレント、商品、企業名など)に関しては、次の回までにページを増やしておく</p> <p>みずからの操作によって画面が切り替わったり、動画が動いたりする様子を楽しめているかを表情や身振りから推測する</p>



Yさんの使ったキーボードスイッチ



M君

生徒の活動、 教師の支援、 評価の視点
<p>M君はコンピューターにも興味があるので準備は一緒に行い、コードをつなぐ、モニターを開く、電源を入れる等の手順をやってもらう</p> <p>準備ができたなら、レバーを右に押すようにうながす</p> <p><b>教師が準備した自動車に関するスライドショーを見る</b></p> <p>M君ははじめのうちレバーを押すのがうれしくて、画面を見ずにどんどん前に進んでしまうと思われるので、レバーを左に倒すと前の画面に戻ることを示す</p> <p><b>納得するまで行ったり来たりを楽しむ</b></p> <p>動画の再生などで待ちきれなくなったりする場合(見たい気持ちはあるがレバーを何度も押ししてしまう)は、今回は使用しない黄色のボタンを押すように促す (M君はインターネットの時もキーを押すと画面が早くあらわれると思っているようでマウスのボタンを熱心に押し続けます)</p> <p>スイッチを左右に倒すと画面が変化するということを理解しているか</p> <p>すべての画面を十分に見終えたら、「花子」のスライドショーをいったん終了し、「太郎」に切り替え、1画面あたり9枚表示できるように縮小して貼り付けたさ車の写真を一緒に見て、どの車が好きかたずねる。</p> <p><b>好きな車を選び画面を指さし教師に伝える</b></p> <p>「太郎」から「花子」に画像をコピーして大きさを拡大する ある程度コピーし終えたら、再び「花子」のスライドショーで鑑賞する</p> <p>自分の選んだ車が図鑑に増えていく様子を楽しめているか、教師に写真の大きさや配置を指示するために身振りや手振りで伝えようとしているか、教師は十分に受け止めているか</p>



M君の使ったキーボードスイッチ